駒澤大学心理学論集，2005，第7号，3-4
Komazawa Annual Reports of Psychology, 2005, 7, 3-4

追悼記事

寺岡 隆先生の想いで

学科主任　茅原　正

Eulogy for the late Professor T. Teraoka

Chihara Tadashi (*Chairman of the Department of Psychology, Komazawa University, Japan*)

「さまざまのこと思い出す桜かな」(芭蕉)

新学期，春たけなわの平成16年4月18日，駒澤大学文学部心理学研究室の充実，発展にご尽力下さった寺岡隆先生がご逝去されてから，もう半年が経つ。

寺岡先生が着任された平成5年から平成12年3月定年までの7年間は，最初の5年間が「社会学科心理学コース」，後の2年間が「心理学科」というように，心理学研究室の一大変革期であり，先生には心理学科設立の基礎づくりにどれだけお世話になったか知れない。今でも学科で研究，教育上の運営方針として存続しているものには“寺岡発案”が少なくない。

学科の独立をもって，本誌「駒澤大学心理学論集」も発刊されることになった。初代編集委員長を寺岡先生にお願いしたところ快くお引き受け下さって，その後，その才能がいかんなく発揮されることになる。先生は退職記念の「論集」2号において，「実は退職する当該者というのは私自身なので，正直いって編集委員長としてはなんとも面映ゆい感がある」，……「私の編集者としての役割もこの第2号で終わる。老兵は，静かに消えさるのみである」と後記で述べられ，「論集の表紙は禅師の袈裟の色に基づき，創刊号では紫，本号を黄，以下，赤，茶，黒と続く」と決めて行かれた。この表紙の色については，その後，学科内で賛否さまざまな意見が出されたが，結局，継続されるもようである。

凝りに凝った雑誌編集もさることながら，寺岡先生には，我々がちょっと真似のできない“文章産出力”と呼ばれる，おどろくべき才能がある。先生の原稿をみれば誰もが分かることだが，改行のない，びっしりとしたベタ詰めの文章が，「短期間のうちに大いに産出される」のである。特殊な「禅心理学」を専門とする私の学位論文審査の際，専門外で，副査であった寺岡先生が審査内容をとりまとめる役になった。ところが，先生は審査締切を前に，予定の在外研究のため米国へ出発されてしまった。その後，先生の審査内容の原稿は，何故か私のところに巡り回ってきて，申請者自身が自分の審査内容の校正をするという誠に妙なことになった。先生は生前，よく「学位論文は共同作業ですから」とおっしゃっていたが，まさか，これが“そういうこと”ではあるまいと，首をひねったものである。

寺岡先生は一流の学者であり，「研究の虫」であると同時に，人間的で優しい趣味人でもあった。先生が着任して最初の夏休み，当時，専用の実験室がなかった私は，人の出入りの少ない夏休みが，朝から研究室で実験できる絶好のチャンスであった。しかし，私がいつも研究室に到着するころには，すでに隣の寺岡研究室からは大音響のクラッシック音楽がながれ，その日の実験はとりやめということが少なくなかった。二人が直に面と向かって出くわしたことはないが，互いに気配を察してか，その後の“休日研究”はだんだん少なくなったような気がする。

寺岡先生にはスタイルがあった。“旧制の美学”も然り，誰もが知っている赤いスポーツカーに白マフラー，アルミのアタッシェに黒メガネ，さらには，砂糖沈殿コーヒー，チェーンスモーカ等々，みんな昨日のことのように思い出される。

4 年前の退職の際，先生はご壮健で，今後とも駒澤大学のために何とぞお力を，などと甘えたお分かれをしたが，さほど時を経ずして，今度は本当のお別れになってしまった。生前の先生の人柄からか，通夜の席でご遺族の方に，思わず“ありがとうございました”と口走ってしまったが，いま，先生を慕う教え子たちの多くもまた同じ気持ちであろう。

寺岡先生　ありがとう。

平成 16 年 神無月 記

故寺岡 隆教授　略歴

1929 年 7 月 20 日　東京世田谷生まれ。
1953 年 3 月　東京大学文学部心理学科（旧制）卒。
1956 年 7 月　北海道大学文学部心理学研究室助手。
1977 年 4 月　同講師，助教授を経て，教授
1993 年 3 月　定年退官（北海道大学名誉教授）。
1993 年 4 月　駒澤大学文学部教授。
2000 年 3 月　定年退職。
2004 年 4 月 18 日逝去。

主要業績

1975 年 「行動論的選択方略分析の基礎的研究」にて文学博士（東京大学）.
1989 年 『事態構造論序説―心理学におけるひとつの視座』福村出版.
2000 年 『対人社会動機検出法―「IF-THEN 法」の原理と応用』北大路書房.
他多数.

なお，寺岡隆教授の略歴や業績については，本誌第 2 号（2000 年）にさらに詳しく掲載されています。